

内向き症候群

小川 郷太郎 AFS日本協合理事長 ①

最近の日本は政治も経済もマスコミも、そして国民も皆内向きだ。政党は、目先の選挙に勝つため、税制など国の制度設計は先送りバラマキ政策に走る。「ムダ排除」を旗印にますますミクロの詮索に没入し、国の将来にとって重要な教育・科学・文化の予算を削る。企業経営者にはリスク回避傾向が強くなり、世界市場で果敢にシェアを伸ばす韓

国をはじめとする新興国の台頭が激しいが、これらは日本のわれわれの生活にも大きな影響を及ぼす。日本は対外依存度が高いのに、継続的な政府開発援助(ODA)削減や国連の平和維持活動(PKO)への尻込みなどによって存在感を低下させ、資源獲得競争にも遅れがちだ。知らぬ間に日本の高校生の学力も国際比較で低下している。国際舞台で活躍できる人材も減り、アジア近隣国の後塵を拝している。

教育ウォッチ

人材も減り、アジア近隣国の後塵を拝している。

国などの企業に遅れを取る。マスコミは国内の事件報道に過度の力を注ぎ、国民の目を内向きにさせている。国民も経済困難の中で必死に節約をし、結婚や出産を遅らせる。多くの人が携帯電話を見つめて下を向いて歩く。思考と行動の縮み志向が強まっている。

今年も例によって、週刊誌などが、どこの大学にどの高校から何人合格したかを競って報じ、先生も生徒もそれを見て一喜一憂する。高校生それぞれが個性に即して今後どのような道を歩んで人格や能力の形成を図るかを、日本や世界の動きを見ながら考えることが重要だと思ふ。入試の内容や形式をガラッと変えるのも一案かもしれない。

もうちょっと周りを見回してはどうだろうか。国際社会ではテロや紛争が相次ぎ、中

高校留学のススメ

小川 郷太郎 AFS日本協合理事長 ②

高校時代にアメリカに行きたいという大きな夢を持って、AFSという交換留学制度の試験を受けようとした。だが、英語の先生から「受験に不利になるからやめた方がよい」と助言された。青春の夢は抑え難く、試験を受け、1年間アメリカはユーマキシコ州のアルバカーキの家庭にお世話になり現地の高校に通った。「スピーチ」など、日本の高校にはなかつ

での体験は、人間形成や能力開発に多大な好影響を与えている。実際、高校留学経験者は実に多様な分野で活躍している。異文化社会での生活への対応能力や潜在的な能力が開発され、視野を広げ国際性が身に付き、将来の「就活」にも大いに役立つからだ。今まで通りに目先の受験に全精力を注ぐだけが賢明なことだろうか。

教育ウォッチ

先日、ハーバード大学に留学している日本の学生

た科目の勉強はその後、社会に出て非常に役立った。異文化社会での考え方の違いや己の生き方に大いに目を開かせた。それが外交官という生涯の仕事につながった。

が、わずか1人になったと報じられた。グローバルゼーションや世界の相互依存関係が深化した今日、国も個人も外国の動きに無関係では生きられない。

最近、高校生の留学志望者が減ってきている。理由の一つに、依然として受験勉強があるという。勉強や研究を目的とする大学レベルでの留学と違って、無限の感受性と対応能力を持つ高校時代の外国

異文化体験の必要性は、いまだかつてなく大きい。内向きは国力の衰退につながる。若いときの留学を目指そう。AFS交換留学では世界中の高校での留学への道が開かれている。

個性と和

小川 郷太郎

AFS日本
協会理事長

③

長女と次女がそれぞれ4歳と2歳のとき、外務省の書記官としてフィリピンに赴任した。その後、今度はフランスに転勤した。フィリピンで身に付けた英語は、わずか3カ月ぐらいでフランス語に代わっていった。

週末など、娘が家に友達を連れて来て遊んでいるのを見ていた。幼いのに、われ先にと競い合って、ある子は得意

個性が強すぎて」とたしなめられたほどだったが、しばらくすると澁刺(しぶさ)さが消えて、随分と無口になってしまった。後年、本人に聞くと友達から随分いじめられて苦しんだそうである。

数年後生まれた息子は3歳のときからモスクワとソウルで幼少時代を過ごした。両都市でアメリカ系の学校に通い、これまた自由に育ったひ

教育ウオッチ

男は、帰国して日本の小学校の制服制帽に身を

包むと皆と同じように見えた。「これがあの太郎か」と落胆したことを覚えていた。

和を尊び、子どもたちに秩序と規律を躐(お)ける日本式教育は、フランス人にも煎じて飲ませたい気もするが、個性の伸びを抑えるような教育は日本にとって惜しい気もする。日本人は多くの良い資質を持ちながら、おとなしすぎて国際的発信力を欠き、国際舞台では大いに損をしている。

帰国後、長女は4年生の3学期に初めて日本の小学校に通うようになった。外国で個性発揮をたたき込まれたため、秩序や和を重んじる日本の教育環境に随分と戸惑ったらしい。保護者会では、先生から「お宅のお子さんは少し

人の心は万国共通

小川 郷太郎

AFS日本
協会理事長

④

私は約40年の外交官生活でフランス、フィリピン、旧ソ連、韓国、ハワイ、カンボジア、デンマークと7つの国に住み、出張などを含めて5大陸を回った。各国それぞれの面白さを知り、日本の良い点や悪い点にも気が付いた。

何が一番心に残ったかと聞かれたら、「どこの国でも人の心は同じ」という単純な事実だ。家族や友人が死ねば深

害者の立場に置き換えて考えることもできる。

人間の尊厳が損なわれていくようなカンボジアの壮絶な貧困の現場を直視すると、経済大国の日本が財政赤字を理由に援助(ODA)をどんどん削減することに疑念を感じるはずだ。

国と国との紛争の背景には、無知や誤解や偏見があることが多い。加害者は被害者の感情を知ら

教育ウオッチ

ないことから、過去の歴史をめぐ

い悲しみを覚え、圧政や強要には強い怒りを覚える。それは当たり前だが、日本においてよく見えなかったのは、苦しんだ人々の感情だ。朝鮮半島を植民地化した日本の政策が、いかに深く現地の人々の心を傷つけたかが、そこに住んでみて分かった。

日本にいれば、韓国や中国の執拗(しつぱう)な反日感情を煩わしく思うが、現地に行けば自分を被

軋(お)れもエスカレートする。日本人にも原爆やシベリア抑留に関しては、被害者意識がある。人間には同じ感情があることを知って、自分を相手の立場に置き換えて考える必要がある。

国際理解教育は、島国で対外依存度の高い日本には特に重要だ。国際社会の現実を学ぶ修学旅行をもっと増やしてみよう。